

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名			部名	生活文化部	
	17037	伝統的建造物群保存修理修景事業			課名	文化スポーツ課 まちなみ文化財G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	09:歴史的風致を生かしたまちづくりの推進				款	10:教育費
	施策の方向	02:閑宿伝統的建造物群保存地区の保護の推進				項	05:社会教育費
	戦略プロジェクト	04:「ジモトノココロ」プロジェクト				目	08:町並み保存費
	事業予定期間		H 19 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等		文化財保護法・亀山市伝統的建造物群保存地区保存条例	

目的・概要	対象	保存地区住民・閑宿来訪者
	目的	亀山市閑宿伝統的建造物群保存地区において、老朽化した伝統的建造物の修理・修景を進め、歴史的景観を保存整備するとともに、生活環境の整備を進める。
	概要	歴史的なまちなみの保存整備を図るため、継続して修理修景事業を実施する。また、歴史的景観、生活環境の整備を両立させるため、地域において保存事業等にかかわる建築士等の育成を進めるとともに、保存地区内の市所有施設の公開活用を進める。

令和元年度			令和2年度		令和3年度	
年度計画	○伝統的建造物保存修理修景事業 (補助金交付) ・大修理……………3件 ・中修理・修景…5件 ・小修理・修景…3件		○伝統的建造物保存修理修景事業 (補助金交付) ・大修理……………3件 ・中修理・修景…5件 ・小修理・修景…3件		○伝統的建造物保存修理修景事業 (補助金交付) ・大修理……………4件 ・中修理・修景…4件 ・小修理・修景…3件	
	○伝統的建造物保存修理修景事業 (補助金交付) ・大修理……………2件 ・中修理・修景…3件 ・小修理・修景…13件					
事業の計画・実績	計画額	事業費	40,000千円	40,000千円	40,000千円	
		国庫支出金	18,540千円	18,540千円	18,540千円	
		県支出金	2,590千円	2,590千円	2,590千円	
		地方債				
		その他				
		一般財源	18,870千円	18,870千円	18,870千円	
	予算額	事業費	31,580千円			
		国庫支出金	14,540千円			
		県支出金	2,035千円			
		地方債				
		その他				
		一般財源	15,005千円	0千円	0千円	
	決算額	事業費	31,274千円			
		国庫支出金	14,400千円			
		県支出金	2,016千円			
		地方債				
		その他				
		一般財源	14,858千円	0千円	0千円	
	人件費	総人件費	2,355千円	0千円	0千円	
		一般職員	2,355千円	0千円	0千円	
		所要人員	0.30			
		会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		33,629千円	0千円	0千円		
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%		

指標					令和元年度	令和2年度	令和3年度
	名称	保存修理修景事業補助金等交付累計額	活動	計画値	340,000	380,000	420,000
		平成19年度からの保存修理修景事業に対する補助金等交付額の累計		実績値	371,481		
				単位	千円	千円	千円
	名称	保存修理修景完了率	成果	計画値	58	59	60
		伝建地区内伝建物・非伝建物を合わせた全棟に対する保存修理修景事業完了率		実績値	58		
				単位	%	%	%
	名称			計画値			
				実績値			
				単位			

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 空家等の活用のための修理修景事業に対しては優先的に補助金の交付を行い、解消を図っていく。また、適切な修理修景事業を実施するため、保存団体・職能団体・活用事業実施団体等との協議及び調整を行う。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 空家等の活用のための修理修景事業に対しては優先的に補助金の交付を行えるよう協議を進めた。また、適切な修理修景事業を実施するために閑宿まちなみ保存会や閑宿案内ボランティアの会等と連携し、旧落合家住宅等を用いて公開活用を行った。また、NPO亀山文化資産研究会と連携し、修理現場公開を行った。

事業の評価	評価		(判定)
	活動	【計画どおりに実施できたか】 当初計画していた案件(11件)だけでなく、小規模な修理・修景案件(7件)についても随時協議を進めた。また、空家等の活用のための協議を進めた。計画以上に実施することができた。	A 計画どおり実施できた
		【成果は順調に上がったか】 計画どおり実施することでまちなみの修理修景が進んだ。修理事物のうち1件は空家を解消することができた。また、NPO亀山文化資産研究会と連携した修理現場の公開を2回実施したところ、参加者の修理・修景事業に対する理解が深まっただけでなく、参加した伝建地区内の所有者の中には修理・修景への意欲を示される人も見られた。	
	成果		A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 計画通り執行しているものの、修理要望を満足させるには至っていない。また、少子高齢化等により全国的に空家が課題となっているが、閑宿においても文化財としての価値を維持向上するため、空家の解消を図っていく必要がある。	今後の方向性	☒ 拡大
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 空家等の活用のための修理修景事業に対しては優先的に補助金の交付を行い、解消を図っていく。また、適切な修理修景事業を実施するため、保存団体・職能団体・活用事業実施団体等との協議及び調整を行う。		☐ 現状維持
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 適切な修理修景事業を実施することで、文化財としての価値を後世に伝えることができる。また、波及効果として、空家を解消することも可能であり、地域の活性化に寄与することができる。		☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他
対応時期			令和2年度～	【その他の場合、その内容を記載】

【1次評価者】	生活文化部 文化スポーツ課 まちなみ文化財グループリーダー 山口 昌直
【最終評価者】	生活文化部 文化スポーツ課長 小森 達也

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A		
	成果	A	A	A		

■ 令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		31,580 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	31,580 千円
	令和2年度への繰越額	千円